

一 般 質 問 通 告 書

2025年8月25日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 11番 福井 節子

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・ 質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・ 質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
2. 項目ごとに一括質問一括答弁

（質問番号 1） 発 言 事 項	新ごみ処理施設建設の進捗と課題、今後の取組み方針を問う
要 旨 （項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。）	
高島市の大きな課題の一つが、新ごみ処理施設建設課題です。今城市長は、これまで地元議員として発信されてきた立場もあり、市長となられた今、どの様に考えどの様に進めようとされているのか、市民の関心事でもあります。 また、地球沸騰化の時代と言われるように、異常な高温の気象状況となっている中、真剣に「ごみ」についても市民一人ひとりが考え、減量に責任を果たす良い機会ではないでしょうか。そこで、以下問います。 1、「最小の財政投資で最大の効果」を得るために、市にとって巨大事業である新ごみ処理施設建設は、総合評価の一般競争入札とする場合、複数以上の入札参加者が担保されるのか。一社の場合は取り止めとする基本方針にすべきと考えますが如何でしょうか。 2、高島市は、一般廃棄物は廃掃法による収集焼却処分を基本とする考え方で進んで来ました。しかし、地球温暖化・沸騰化の一層の進行と、COP28で上昇温度を1.5度以下にするとした世界と日本のCO2削減の課題からしても、大型焼却施設の新設は避けるべきだと言わざるを得ませ	

ん。そうした情勢下でも、必要最小限の燃やさざるを得ない物だけ燃やす、最少の一般廃棄物焼却施設が求められますが、一般廃棄物処理では可燃・不燃・リサイクルを市と市民、事業所が一体となった分別収集にすべきだと考え、次の点を伺います。

- ① 一般廃棄物焼却量は当初５２トンとされていたが、人口減、生活様式と一般家庭廃棄物の減少、廃プラ分別リサイクルの意識の高揚などで、日量４３トンに修正しての新環境センター焼却施設が示されました。しかし、リサイクル新施設でのプラスチック分別収集は新焼却施設稼働の約２年後であり、前倒しでの事業計画、例えば新焼却施設と同時に建設する、または場所を別に建設するなど、分別収集を更に確実に進め拡大していく実施計画にすべきでないかと考えます。通年１０００トン近く焼却量の減少が見込めると考えるがどうか。
- ② プラスチックごみ分別収集を約２年前倒ししようとするれば、Ｒ８年度から方針の確立と実施計画を立てる必要があります。その大前提は、「一般家庭可燃ごみ半減計画」です。そのためには「何でも燃やせるごみ焼却施設」溶融炉のイメージを大転換する必要があります。市自身の意識改革、市民・事業者への要請・合意形成が必要です。その点での認識、まずは市自身の意識の改革が必要ではないか。その上で、市民に対する呼びかけをどのようにして行くのかが必要と思うがどうか。

３、一般家庭の廃棄物の約４割を占める生ごみ対策は、新施設が建設される場合でも、それまでの間、家庭ごみ分別リサイクルの大事な柱ではないでしょうか。党議員団はこの課題を、繰り返し提案してきました。

現在、大津市内の生ごみリサイクル事業者が、高島市内の事業所生ごみ残渣を収集されていると聞く。どのような市との協議になっているか。収集事業所と収集量は把握されているか伺います。今後の収集リサイクル量の見通しはどうか。

４、古紙回収は、以前は市も率先して自治会や子ども会などでの取組みを

支援したり、古紙を集める袋の作成を、障がい者通所施設に仕事として発注したりしてきました。目に見える形で、市が関わってきましたが、現在は各支所などで拠点回収が行われていますが、十分な回収となっているのでしょうか。

市内では、民間事業者が経営努力をしていますが、燃料の高騰から個別に回収に回られることは無くなりました。また、ドラックストアやスーパーなどで回収ボックスを置き、ポイントを付与されたりしていますが、市内全体の回収はどの程度になっているのか、つかんでおられるのでしょうか。

5、市内介護施設や乳幼児施設での「紙おむつ」の分別収集は進んでいるのでしょうか。市内で使用された紙おむつは、分別処理ではなく可燃ごみとして出されていれば、全体の1割近くを占めると言われています。一般家庭での総使用量、総廃棄量は把握出来ているか。この分野でのリサイクル事業者との意見交換などは、出来ているのでしょうか。